

## 園芸作物導入のための先進地視察を開催（砺波市）

柏崎周辺農業水利事業所  
調査設計課

11月7日（火）に、新潟県農地部と連携し、富山県砺波市にて園芸作物導入のための先進地視察が行われました。

特に柏崎周辺農業水利事業の受益地である柏崎・刈羽地域では、農業産出額のなんと7割以上を米に依存しています。

新潟県全体でも農業産出額の5割強は米に依存していますが、更には近年の米価低迷による影響を大きく受け、県下の農業産出額自体も年々減少傾向にあります。

そのため、新潟県は新たな土地改良長期計画に基づき、「高収益作物への転換による所得の増加」、「担い手の米の生産コストの大幅削減」を推進すべく、様々な取組を検討してきており、特に国営事業実施地区においては、国営事業所と連携した取組を展開しようとしています。

柏崎地区は「ほ場整備率」が県平均よりも10ポイントほど低く、生産コスト削減のためには「ほ場整備での大区画化による営農作業効率化」、高収益作物転換のためには「ほ場整備での乾田化による排水条件の改善」と、とにかく「ほ場整備」の推進が非常に重要です。

「ほ場整備事業」は柏崎周辺農業水利事業の関連事業として、事業効果に大きく関わっています。このため、「ほ場整備事業」の推進と、農業収益を向上させるための「高収益作物の転換」を目標として定め、新潟県と事業所が連携して視察を企画しました。

今回の視察は、新潟県が「県内のほ場整備着工予定地区関係者」、事業所が「柏崎・刈羽地区で高収益作物導入の意欲がある者」を中心に、営農関係者へ呼びかけを行い、総勢100名近くの大視察団となりました。

視察内容として、高収益作物を推進するための前提条件として、収益を上げるためには、「年中需要のある作物であること」、「労力軽減のための機械化が可能な作物であること」が挙げられており、そこで「たまねぎ」が推奨され、近年、砺波市で「たまねぎ栽培」が大々的に行われていることから、視察先が砺波市となったものです。

当日は、新潟出発組と柏崎出発組に分かれ、現地を目指しました。

我々は柏崎出発のため、8：45に柏崎地域振興局からバスに乗り込みました。

途中、有磯海パーキングエリアで新潟組と合流。新潟県担当者から、柏崎組のバスに同乗していただき、これまでの経緯や取組についての説明をしていただきました。

予定より30分も早く、最初の視察先である【道の駅「砺波」】に到着し、道の駅に隣接している直売所を視察しました。

直売所では、地元で採れた米・野菜の他、土産物なども多数販売されており、大変

大きな直売所でした。我々が関心を持っている「たまねぎ」に関しては、たまねぎ焼酎、たまねぎパイ、スナック菓子、甘酢たまねぎ、たまねぎの真空パック（3個詰め）など、様々な加工品が販売され、参加者は興味津々で商品を手に取り、情報を収集していました。



道の駅「砺波」直売所

続いて、13:30から【JAとなみ野 たまねぎ集出荷貯蔵施設】を見学しました。ここからは、富山県担当者とJA担当者にも合流していただき、説明を受けながらの見学です。

富山県担当者から、「砺波も、これまでは水田単作が98%と米一辺倒だったが、人口減少、食の多様化、米価低迷により、米だけではダメだと考え、園芸複合化を推進することとなったこと」、「園芸作物の導入に当たり、水稻と作業が被らないこと、出荷時期が他産地と重ならないこと、機械化できることをポイントとして、たまねぎが選定されたこと」など、園芸作物(たまねぎ)導入の経緯を説明していただきました。

将来的には、生産面積200ha、生産量を現在の6千t弱から1万tへ増加させることを目標に、設備も整ってきていることを聞き、規模の違いに驚かされました。

ちなみに、柏崎でのたまねぎの生産量は2百t程度（JA柏崎への聞き取り）と、まだまだ伸びる余地があります。

また、営農指導など、JAを中心に富山県、研究機関とも連携しつつ、販路の確保も進めて導入が本格化していることを聞き、関係機関の連携が重要だと改めて感じました。

その後、施設の見学を行いました。



たまねぎ 集出荷貯蔵施設



1階 優品等積載装置



2階 選別装置

最後に、【たまねぎ栽培ほ場】を視察しました。

このほ場の経営者は、全部で40ha程度の営農を行っており、内、米30ha、たまねぎ5ha、他は麦等を作付けしている方で、「米」の収益よりも「たまねぎ」の収益の方が大きいとのこと。

昨年のおまねぎの単収は10aあたりで7tと、非常に優秀な経営体のようにす。

参加者からは、「機械だけの定植の割に活着がしっかりしている。何か特別なことをしているのか。」「栽培に当たって特に気をつけていることは何か。」「肥料・除草剤は何を使っているのか。」「ほ場の暗渠はどうしているのか。」などなど、たくさんの質問が出されました。

各々富山県担当者から丁寧な回答をいただき、納得した様子。

たまねぎ導入のための条件や、栽培技術に関することなど、前向きな質問が多く出されていたこともあり、今回の視察はとても意義があったと認識しました。



視察した たまねぎ栽培ほ場

今回の視察により得た情報を、参加した方がそれぞれの地域で有効に活用し、新たな取組へ役立てていただき、個々の農家の収益向上、更には柏崎・刈羽地域の農業産出額の向上、また更には新潟県全体の農業産出額の向上・地域活性化に向けた一歩になればと思っています。

今後も、関係機関と連携し、様々な取組を行って参ります。

引き続き、関係機関からのご協力を宜しくお願いいたします。



総勢約100名の視察団バス